

議長記者会見（第54回）会見録

日時：令和7年12月19日（金）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室

会見を行う安宿議長（右）と八田副議長（左）



それでは、まず、今定例会を振り返ってであります。

一つ目に、物価高対策の補正予算の提案について、議論がなされました。家庭向け水道基本料金の無償化など県の独自支援や、国の補正予算案に呼応し追加提案された医療機関・高齢者福祉施設等への支援金の支給など、いずれも県民生活や地域医療・福祉に直結する重要な予算であり、議会としても全会一致で可決いたしました。執行部におかれでは、速やかに予算執行できるよう、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

二つ目に、9月定例会に引き続き、能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧復興について、建設型応急住宅の空き住戸の有効活用など、多岐にわたる議論が行われました。

議会としても、1日も早い復旧復興の実現に向け、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

三つ目に、石川県全体のプロジェクトの推進として、知事から、能登の被災地復興と並行して、石川県全体の更なる成長の基盤とするため、金沢、加賀での大規模プロジェクトも前進させたいとの前向きな答弁がなされました。

人やモノの交流、医療・福祉・教育、防災・安全の各分野で、いずれも県全体の成長に欠かせない事業であり、今後の進捗を大いに期待しております。

四つ目に、今定例会で提案されたいしかわ子どもの権利基本条例については、これまで厚生文教委員会でも議論を深め、保護者、学校関係者など他者の権利を尊重することを基本理念に盛り込むなど、子どもが過剰に権利主張することに対する懸念といった議会での意見が反映されたものであり、本日議決されました。

そのほか、加賀料理の国無形文化財登録や県立高等学校の1人1台タブレット端末の更新など、幅広い議論がなされました。

今後とも、議会として、多方面の県政課題に対し、知事はじめ執行部と丁寧に議論を行い、施策の実行に繋げてまいります。

また、今定例会中に可決された意見書についてであります。意見書等調整会議におきまして、調整等された結果、各会派から提案があった9件の意見書・決議のうち、子供たちの教育環境の更なる充実を求める意見書など5件が可決されました。

可決された意見書については、議会として国へ要望するものであり、国会および関係行政機関へ提出することとしております。

次に、今年を振り返ってであります。

能登半島地震発生から2年、奥能登豪雨から1年3ヶ月が過ぎようとしております。

県では、本年を復興元年と位置づけ、被災者の生活と生業の再建や創造的復興に向けた歩みを着実に進めてまいりました。

本年元日には、ご遺族並びに石破総理を初め、政府関係者など多くの皆様にご列席をいただき、能登半島地震・奥能登豪雨犠牲者追悼式が開催されました。

また、本年5月に被災状況の視察のため来県された愛子内親王殿下のお成りに、議長として同行いたしました。

殿下がお一人で被災地を訪問するのは能登が初めてのことですが、被災者に寄り添い優しくお声掛けくださる殿下の姿が非常に印象に残っており、殿下に改めて感謝を申し上げたいと存じます。

来年元日には2回目となる追悼式が開催されます。私も参列し、お亡くなりになられた方々への哀悼の意を表し、改めて被災地の創造的復興に向けた決意を新たにしたいと存じます。

次に、県内スポーツ関係者の活躍についてであります。

まず、津幡町出身の大の里関が大相撲5月場所において2場所連続、4度目の幕内最高優

勝を果たし、横綱に昇進され、石川県県民栄誉賞が贈呈されました。横綱昇進後も大相撲秋場所において、昇進後初めての幕内最高優勝を果たすなど、今年1年は大きな飛躍の年となりました。

また、11月のトランポリンの世界選手権女子シンクロナイズド競技で金沢学院大学出身の森ひかる選手と同大学4年の田中沙季選手のお2人が金メダルを獲得し、先日、石川県スポーツ特別賞が贈呈されました。

さらに、陸上界では星稜高校2年の清水空跳選手が、7月の全国高校総体男子100mで18歳未満の世界新記録となる10秒00をマークして優勝を果たし、一躍日本全国で注目を集める選手となりました。

県民に勇気と元気を届けてくださった皆さんのがんばりを期待しております。

次に、県議会に目を移しますと、2月に中村勲議員、3月には稻村建男議員がご逝去されました。長年にわたり、県議会をリードされてきたお2人のご功績に対し、改めて心から敬意を表します。また、6月に沖津議員と川議員の議員辞職がありました。同僚議員として、これまでのご尽力に改めて感謝申し上げたいと存じます。その後の補欠選挙にて竇達議員、喜多議員、荒木議員及び金子議員の4名が当選されました。既に議員として活躍されておりますが、皆さんには、今後とも県民の負託に応えるべく、取り組まれることを期待しております。

続いて、女性議長としてこれまでの取組みをご報告いたします。

まず、私が委員長を務めております全国都道府県議会議長会の男女共同参画委員会についてであります。

これまで8月、11月と2度の委員会を開催し、女性・若者が立候補しやすい方策、女性・若手議員が働きやすい議会とする方策をテーマに議論を深めてまいりました。今月22日に第3回を開催し、提言を取りまとめることとしております。議員が働きやすい環境づくりの一環として、私から提案した、標準会議規則に規定する議員の出産のための欠席期間を産前6週間から8週間への改正をはじめ、16項目の提言を来年1月19日に全国議長会会長へ手交し、標準会議規則の改正については、同日の役員会にて決定される見込みです。

なお、1月21日に開催される全国議長会定例総会にて私から提言の報告をする運びとなっております。今後、標準会議規則の改正など委員会の提言内容が、全国の都道府県議会へ広まることを期待しております。

また、先月27日には党派や自治体の枠を超えた県内の女性議員による研修会を、本県において初めて開催いたしました。女性議員同士の連携を深め、共に学ぶことを通じ、女性の政治参画を推進するきっかけづくりができたと考えております。

本年は、高市総理が女性初の総理大臣に就任するなど、女性の政治参加にとって大きな節目の年でもありました。私としても、今後とも、女性が政治の場で活躍できる環境づくりに全力で取り組んでまいります。

最後に、北陸新幹線の早期全線開業に向けた要望についてであります。昨日、議長として、金子国土交通大臣及び自民党と日本維新の会の幹部に要望に行ってまいりました。整備効果を最大限発揮するためには、何よりも1日も早い大阪までの全線開業の実現が必要不可欠であり、政府・与党においては、新たな枠組みによる建設的な議論と早期の工事着工を進めていただきたいと思っております。

私からは以上です。

＜質疑応答＞

記者

1年を振り返って、特に印象的だったことはありますか。

議長

この1年を振り返って一番印象的だったことは、県勢発展、県民の安全・安心のためにご活躍いただいた中村勲県議と稻村建男県議が現職でお亡くなりになったことで、とても残念な思いです。

私が議長に就任したときに、経験豊富な議員もたくさんいらっしゃる中で、どこまで議長として前に出て行けばよいのかと思うこともあったのですが、稻村議員には、議長という肩書きは議会にとって何よりも重いので、議長としてしっかりと立ち振る舞いをしていくべきだから、先輩がいても、議長の席を勧められたときは、堂々と座るものですよとご指導いただきました。ご指導いただいた後、1ヶ月も経たないうちにお亡くなりになった。本当にあのときに稻村議員にご指導いただき、ありがとうございました。中村議員、稻村議員の思いをしっかりと受け継いで、石川県勢の発展と県民の安全・安心、そして幸せのために頑張っていかなければならぬと決意を新たにしています。

もう一つは、愛子内親王殿下が被災地訪問で初めて能登を選んでいただいたことです。被災者お一人お一人に寄り添ってくださる姿勢にまさに感銘を受けました。

1日目に愛子内親王殿下にお付きになられた宮内庁の職員の方たちが、被災者の皆さんからお聞きしたお話も含めて、次の日に殿下がご自分の言葉として、被災者に伝えていらっしゃいました。本当に国民に対する思いが素晴らしいなと改めて感じたご訪問でした。

議長でなければお話させていただく機会にも恵まれなかつたので、今回こうやって議長を務めさせていただき、愛子内親王殿下と直接お話をさせていただけたことにとても感謝をしています。この思いを一議員として、しっかりと能登の皆さんに返していかなければいけないと思っています。

副議長

私も同じで、稻村議員から、議長・副議長は、議員の代表なのだからどっしりと構えておかないといけないという意味のお言葉をいただきました。それが最後の言葉だったと思うと寂しさを感じます。

中村勲議員には、一緒にロシアに行かせていただいたときや、様々な場面で温かく接していただきました。副議長になったときも、見届けていただいて、よく頑張ったなと言って欲

しかったという思いはあります。

また、女性の正副議長就任が初めてということが色々な所で言われます、公務が多忙すぎて、本当にやりたいことがまだやれていないような気がして、日だけが過ぎていって、焦りもあるのですが、女性の正副議長として、何か実績を残したいという思いはあります。これからも2人でできることは精一杯やっていきたいですし、ヒラリー・クリントン氏でもできなかつたガラスの天井を私達は破つたと思います。精一杯努力して、今のポジションでできることをもう少しやって行きたいと思っております。

記者

先月27日に初めて開催された女性議員の研修会についての振り返りと、今後どれぐらいの頻度でどのような内容でやっていきたいのか教えていただけますでしょうか。

議長

報道の皆さんにも見に来ていただきありがとうございました。県内の女性議員に集まっていたので、勉強会をしたいなというのは私が県議会議員になってからの思いでした。

ただ、思いはあるけれど、そんなに簡単にできるものではなく、議長という立場になったこと、副議長も女性であったことで周りの環境も整い、今回こうやって開催できたことをとても良かったと思っています。

ですので、参加していただいた議員の何人かからぜひこれからも継続して欲しいという声もいただいているので来年からも最低1年に1回はやりたいと思っております。

こういう組織を一度作ることができたので、あとは誰が代表になろうと引き継いでいただけると思っています。今後、何を議論するかということなのですが、基本的には次回からは皆さんどんなことを議論したいのかアンケートを採って、県で取りまとめをやらせていただくので、全議員に共通する案件がよいと思っています。

例えば一つの市町の個別具体的な案件だったとしても、全議員に共通する話題であればしっかりと取り上げていきたいと思っています。私が市議会議員になったときに県の制度が障壁となり進まなかつたということがありました。私が市議会議員のときも、直接県に聞いたり、尋ねたりするという機会がなかつたので、そういう機会にもなればよいと思っています。

石川県が良くなればよいという思いはみんな同じだと思います。女性の議員から、なかなか県に聞きたくても聞けないこともあると思うので、私どもから聞けるようにできればよいなと思っています。

副議長

加えて、せっかく女性の勉強会で集まっているので、やはり女性にしかできないことがたくさんあるかと思うのですが、そういうことをメインにできたらよいのではないかと思っています。

以上